

地方のアーティストが拓くダンスフェスティバルの可能性

野邊壮平 (宮崎大学研究・産学地域連携推進機構/客員研究員)
豊福彬文 (同大学国際連携センター/客員研究員)
児玉孝文 (同大学研究・産学地域連携推進機構/客員研究員)

1. 実践研究の背景及び目的

本研究の動機は、東日本大震災後のいわき市で、芸術文化を通じた復興に取り組んだ大石時雄氏(当時のいわき芸術文化交流館アリオス館長)の「アーティストには表現以外にも役割がある。」(2012)と、発表者が「創作ダンス」と出会った宮崎大学のスローガン「世界を視野に地域から始めよう」の二つである。

本研究の目的は、地方を拠点に活動する振付家・ダンサーが企画・開催している「北陸ダンスフェスティバル」(以下、「北陸フェス」と「みやざき国際ダンスフェスティバル」(以下、「みやざきフェス」)の比較から、地域の芸術文化の振興を目的に地方で開催するダンスフェスティバルの成果や課題、可能性を考察することである。

2. 研究方法

「北陸フェス」を代表する宝栄美希氏と、同じく「みやざきフェス」を代表する豊福には、文化庁「新進芸術家海外研修制度(短期研修)」の小都市における研修体験という共通点がある。そこで、本研究では、“海外研修体験を体験で終わらせない”という観点から、両者の聞き取り調査(聞き手:野邊)を行う。加えて、2023年11月に金沢市で開催される「北陸フェス」を現地調査する。

3. 途中結果(現地調査が未完のため)

1) 聞き取り調査

○宝栄美希/振付家/1986年石川生まれ
・研修先/年度:アルマーダ/2014年度
・目的:国際芸術祭における作品制作、実演、展示
・「北陸フェス」の開始年度:2015年～
・主な聞き取り調査の回答

＞ポルトガルのアルマーダには1つの劇場があり、劇場付きのコンテンポラリーダンスカンパニーがある。ダンススクールと劇場・ダンスカンパニーが連携してフェスティバルを開催しており、地元に着し、確固たる地位を確立していた。

＞アルマーダという地方でも、この様なコンテンポラリーダンスフェスティバルが成立している事をとても羨ましく思った。

○豊福彬文/振付家/1988年福岡生まれ
・研修先/年度:シビウ/2014年度
・目的:子供青年劇場 Gong シアターの調査研究
・「みやざきフェス」の開始年度:2023年～
・主な聞き取り調査の回答

＞ルーマニアのほぼ中央に位置するシビウ。人

口約17万人のこの小都市にGongシアターがあることで、子どもたちの身近に、溢れるように実演芸術があった。

＞Gong シアターに多くのアーティストがレジデンスしていたように、地方都市の子どもたちの日常にこそ、様々なアーティストがいる環境(劇場)が必要だと感じた。

＞Gong シアターでの継続調査(～2019)をする中で、“子どもも鑑賞できる大人の作品”の充実や、そうした作品を上演したり安価に鑑賞したりできるフェスティバルの重要性を強く感じた。

4. 考察(途中)

海外研修で「ダンスカンパニー」を視察した宝栄氏と「劇場」を視察した豊福とで、ダンスフェスティバルを立ち上げるまで時間やコミュニティの作り方などに違いが見られた。

宝栄氏は、2014年の研修後すぐ、行政に企画を持ち込み「北陸フェス」を実現している。9年間の成果と課題について以下のように述べている。2015年の北陸新幹線開通以降、コンテンポラリーダンスを通じて北陸と全国をつなぐ役割を果たしてきた。しかし、石川県内でのコンテンポラリーダンスの認知度は限られた人々にとどまり、その潜在的な可能性が生かしきれていない。コンテンポラリーダンスの普及を通じて、文化の多様性、創造性、コミュニティ活性化、健康促進、観光振興など多くの役割を果たす機会をアーティストに提供するために、アーティストが地域住民と距離を縮め、協力・共感を促進する環境が必要である。一方、豊福＝「んまつーポス」は、地域の認可保育園と連携し、時間はかかったが2019年にGongシアターの兄弟シアター「国際こども・せいねん劇場みやざき」(宮崎市)をオープンしている。また、2023年6月には、「SAI DANCE FESTIVAL」の協力の下、自前の劇場を会場に「みやざきフェス」を開催した。「宮崎で世界を感じられる」と好意的な声が多かった反面、メディアの反応も薄く、コンテンポラリーダンスの認知度を高めたとはいえない。先を走る「北陸フェス」の課題に倣えば、劇場が住民と距離を縮め、協力・共感を促進する環境を整えながら、継続していくための方策を考え続ける必要がある。

両フェスティバルの比較から見えた共通点は、海外の成功モデルがあること、振付家・ダンサーの活動・研究で得られた知識・経験・サービスを地域社会で活用したこと(社会実装)、拠点とする地方の強み・弱みを生かしていることなどであった。現地調査を通して、コンテンポラリーダンスの振興を目的に地方で開催するフェスティバルの可能性をさらに探り、アーティストの「役割」について共に考え、海外での体験を国内で社会実装するアーティストを増やしていきたい。